

当ガイドは、釣行に「必要なもの」から「道具の扱い方とセッティング」、「釣るコツ」を紹介。一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けましょう!!

### ★出掛ける前に必要な小物を購入

#### お買い物リスト

釣行前日までに要準備!  
疑問があったら釣具店に!!

インターロック付きヨリモシ

大きさ3~4号 1~2個

スナップ付きヨリモシでも構いません。

仕掛け

2~3つ

船宿が指定したハリスの号数や長さのものを用意。通常、船宿でも購入できます。

集寄 (集魚板)

市販の集寄を1~2つ

さまざまなタイプがありますが、最近は中オモリタイプが主流です。

オモリ

25号~30号を4~5個

攻める水深などで号数(重さ)が変わるので、船宿でチェックを。根掛かりに備え予備も用意しましょう。

エサ

アサリの剥き身 1パック

ロッドホルダー

各1個 船宿で貸し出しがあるかを訪ね、なければ準備を!

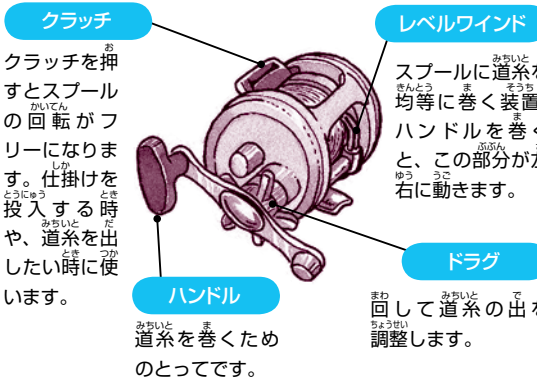
その他あると便利グッズ

「フィールドプレイヤー」や「偏光サングラス」などの便利グッズは、「ゴールドマニュアルブック」の154ページを参考にしよう。

### ★釣るための準備

#### 【ベイトリールの特徴】

スプール(糸巻き)が回転して糸を巻き取るタイプ。



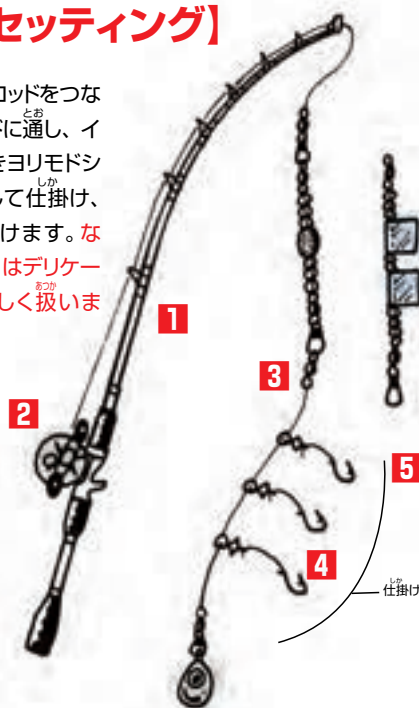
#### ドラグ調整も行おう

イラストにあるつまみを回して圧を調整。ファイト中、魚の引きにハリスやリーダーが耐えきれず負ける(切れる)寸前に、ラインが出るようにセットします。詳しくは、ゴールドマニュアルブック133ページをチェックしましょう!

釣具の特徴と正しいセッティングをマスターして快適な釣りを!

#### 【釣具のセッティング】

基本作業は、ロッドをつなぎ、道糸をガイドに通し、インターロック付きヨリモシに結びます。そして仕掛け、オモリなどを付けます。なお、穂先(先端部)はデリケートなので、やさしく扱きましょう!



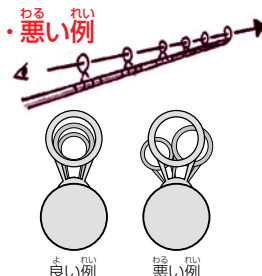
1~5の順でセッテしよう

### 1 ロッドを組み立てる

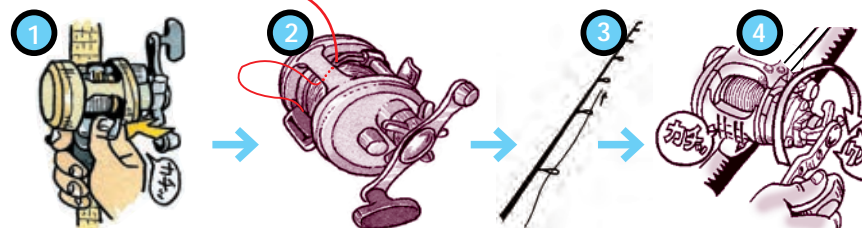


穂先から順に継いでいきましょう。継ぎ目の根元を持ち、ジョイント部を合わせ、軽くなじむように押し込みます。ラインを通すガイドを一直線にすることも忘れずに!

良い例・悪い例



### 2 ロッドのガイドに道糸を通す



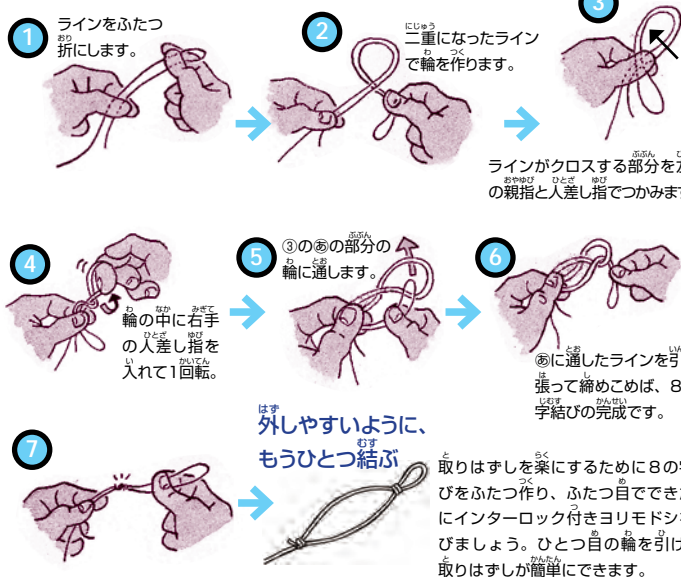
①親指をクラッチに載せ、下に押し込んでクラッチを切って道糸をフリーにします。②レベルwindに道糸を通し、③先端のガイドまで通しきったら、道糸にゆとりを持たせます。

その後、④クラッチを上げて戻すか、ハンドルを1回巻いてクラッチを戻して終了です。

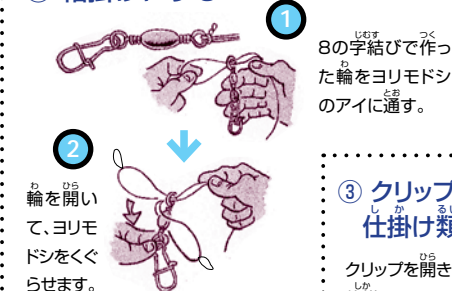
### 3、4、5 道糸に集寄、または仕掛けをセットしオモリを付ける

8の字結びの箱掛けで道糸の先端をインターロック式、またはクリップ付きヨリモシに結び、仕掛けを取り付けます。

#### ① 道糸で8の字結びを作る

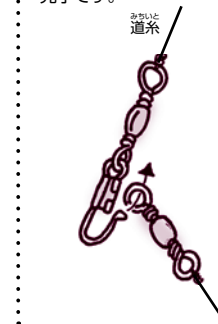


#### ② 箱掛けにする

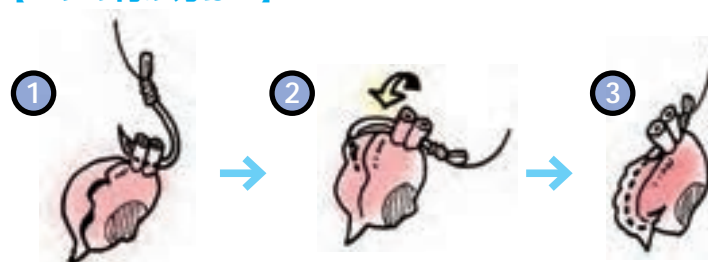


#### ③ クリップに仕掛け類をセット

クリップを開き、集寄、または仕掛けをセット。さらに仕掛けの最後にオモリをセットして完了です。



#### 【エサの付け方は...】



アサリの剥き身1つをつかみ、水管にハリを刺します。

針をヒネってペロにも刺します(ペロを縫い刺しても良い)。

最後はワタに差し込んで終了です。

なおエサは、予め粗塩を振り、タオルで軽く叩くように拭いておきましょう。こうすることでヌメリが取れ、付けやすくなります。



※裏面は、釣るためのテクニックを紹介!!



# 仕掛けの投入、回収法

基本的には仕掛けを真下に落とすだけ。慌てず確実に投入しましょう。あせて投入すると手前マツリの元。回収も落ちついて行いましょう。



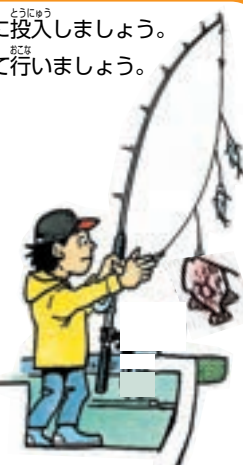
## 投入

オモリを持ち、仕掛け全体が海上に出るように竿を構えます。続いてリールのクラッチを切り、オモリを真下に落とすだけの作業です。

## 回収&取り込み

一定のスピードで道糸を巻きあげ、仕掛けの先端が海面に見えたらオモリをつかむ態勢に入ります。その後はリールを巻かず、穂先を上げてオモリを手前に寄せてつかみましょう。その後は、ロッドホルダーに竿を置いて完了です。

なお、エサを付け替える場合は、船べり下の棚にオモリを置いて作業すると行いやすいです。



# 穂先絡みや巻き込み過ぎに要注意!



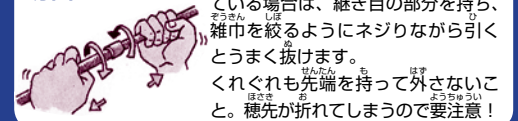
## ※むやみにロッドを地面に置かない!

自分はもちろん、他の人に踏まれて折れることがよくあります。ロッドを置く場合は、荷物に立て掛けるなど、地面に寝かせないように置きます!!

# ※かたづけ上手は、釣り上手! 返却日前までに、しっかりお手入れを!!

レンタル釣具は、返却日まではお手入れをし、元通りに梱包しましょう。また釣具にキズを付けたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れてください。

## ロッドをたたむ場合は…



# ★釣り方のコツ: カワハギ編

## 基本の“聞きアワセ”と応用を使い分けエサ取り名人のカワハギを迎撃!

### ★ポイントはココ

水深20m前後の砂地に点在する岩礁帯に棲息。基本的には海底に落ちている甲殻類やイソメ類などのエサを、頭を下げてつつくように食べます。この習性を利用した釣り方もあります。

エサをかすめ取るのが上手なカワハギ。つまりこの微妙なアタリを、いかに取るかがカワハギゲームの醍醐味といえます。

カワハギは、ヒットパターンがその日によって違い、さらに時間によっても変化します。これに気が付かないと釣果に差が出ますが、以下の3釣法を駆使すれば、いづれかでアタリを捕えることができるので、しっかり覚えておきましょう。

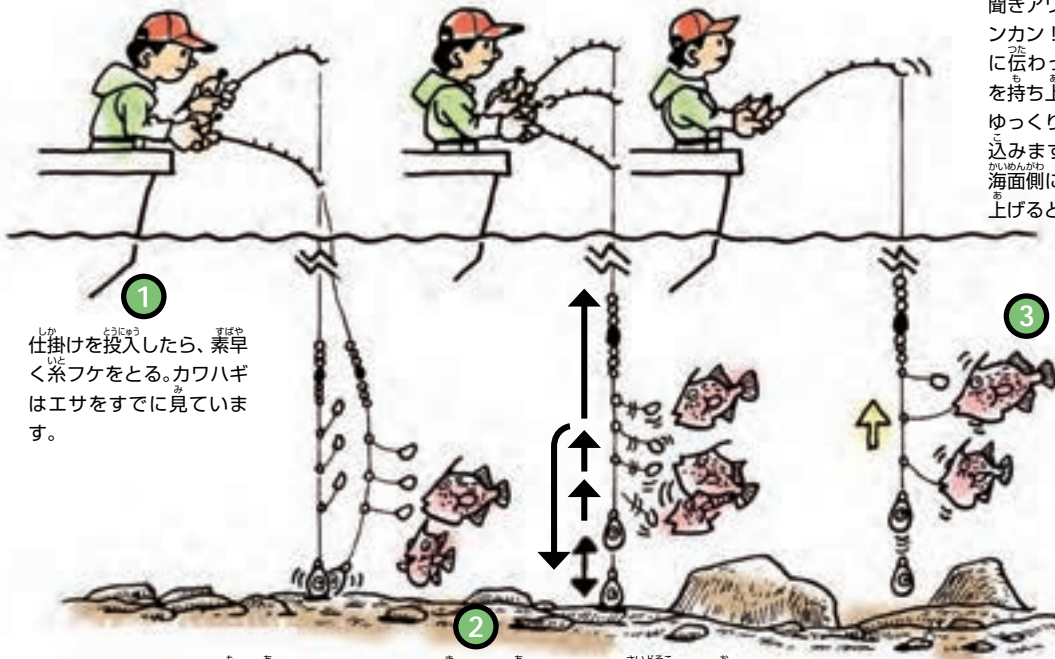
### 基本の聞きアワセ

活性が高いカワハギの場合は、これでも難しく釣れます。

オモリが底に着いたら、ゆっくり仕掛けをロッドで持ち上げて、アタリを確認(聞くと言う)します。お腹がすいているカワハギは、エサに突っ込んできて、追いかけてついでにアタリがバッチリ出ます。

### アタリのイメージは…

カワハギからのシグナルは、聞きアワセの最中に、カンカン! ゴツゴツと金属的に伝わってきます。ここで魚を持ち上げるようにロッドをゆっくりアオってハリを刺し込みます。ロッドを持つ手を海面側に押し出すように持ち上げると上手に掛かります。



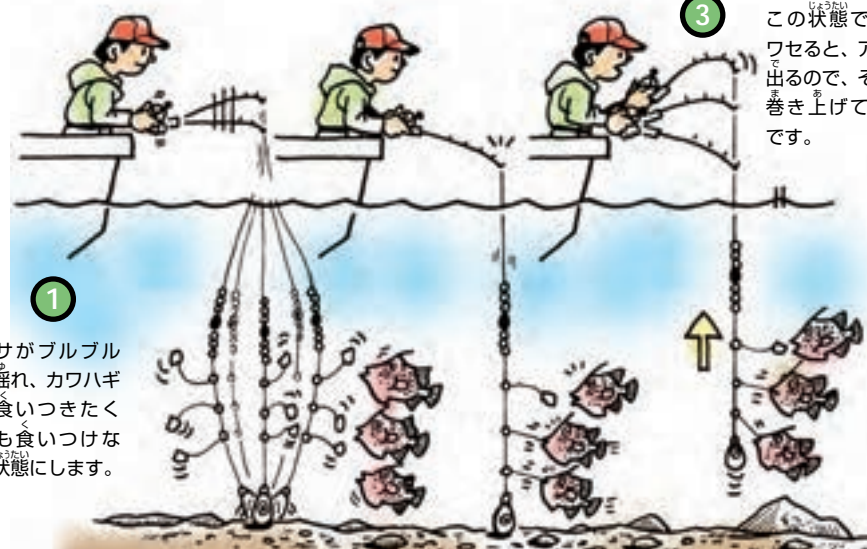
1 仕掛けを投入したら、素早く糸フケをとる。カワハギはエサをすでに見えています。

2 ロッドをゆっくり持ち上げながら、アタリを聞いて、上げきったら再度底まで落として探り直します。これを2、3回繰り返したら、エサをチェックしましょう。ちなみに、タナを徐々に上げて探るのも効果的です。この場合は、持ち上げた分のラインを巻き取りながら上げて行きます。なお、海底から3mくらいタナを探ったら、エサをチェックです!

3 掛けたカワハギが巻き上げの途中で急に軽くなる場合がありますが、それがカワハギの特徴だから慌てないこと。逆に、ここで巻き取りを止めると、バラシの元になるので要注意です。巻き続けるようにしましょう。

### 叩き釣り

“聞きアワセ”でアタリが無ければ、カワハギをイライラさせてからエサに食いつかせる“タタキ釣り”を試してみましょう。仕掛けを投入して糸フケを取ったら、オモリを海底に着けたままの状態、竿先を小刻みに上下に揺らします。10~20回くらい揺らしたら、ピタッと動きを止め、一呼吸置いて聞き上げるとアタリが出ます。



1 エサがブルブルと揺れ、カワハギは食いつきたくても食いつけない状態にします。

2 揺れを止め、エサを食わせやすくする。カワハギは、チャンスとばかりに飛びつき、集中してエサをついばみ出します。

### タルマセ釣り

活性の低いカワハギは、“タルマセ釣り”も威力を発揮します。こちらは、底に落ちているエサをつつくようにして食べるカワハギの習性を利用した攻略法です。仕掛けが着底して、糸フケを取ったら、竿先を下げて、集寄の重さを利用して仕掛けを海底にタルマセ(はわせ)ます。その後10~15秒たったら、スッと竿先を上げて仕掛けを起こし、ハリ掛かりさせます。



1 大好物のアサリが底に落ちている状態を演出し、食べることに集中させます。エサを這わせるので、“ハワセ釣り”とも呼ばれます。

2 仕掛けを起こすと、エサの中のハリが、カワハギの口に引っ掛かり、アタリが出ます。

3 後は、セオリー通りの巻き上げで、取り込みましょう。